

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 5月 10日

事業所名 Plus+days

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	活動ごとに部屋を分けたり、学習の時間には2,3人ずつの少人数に利用者を入れて支援を行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	73%	18%	利用児童に合わせて、トイレや洗面台に踏み台を設置するなどしている。事業所入り口は段差がなくスムーズに入入りできるようにしている。	台所への通路に段差を避けられない箇所がある。手すりをつける等の工夫を行い、安全に通行できるようにしていきたい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	82%	9%	改善すべき出来事があった際には、すぐに話し合い改善方法を考え実践することができている。長期的な目標についても意識することができるように、その目標や評価方法について審議を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	91%	0%	毎年行っている	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	91%	0%	毎年行っている	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	64%	9%		次年度、外部評価を取り入れる予定としている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	研修案内についての周知を図るとともに、事業所や社内での研修も行っている。	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	82%	9%		保護者の方への聴き取りもより丁寧に行えるように今後もっと積極的に面談等を行っていききたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	45%	9%		アセスメントツールについて、提示はしているものの利用者全員へ標準化できていないため今後周知徹底を図っていききたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	91%	0%	土曜日のイベント活動については月に一度内容についてのミーティングを行っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	91%	0%	これまで行ったプログラムの記録を整理し、それをもとに重複した活動とならないようスタッフ間で連携を取っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	82%	0%	主に学習支援を行っているが、長期休暇中等には公園へ出かけてプレイタイムをとるなど利用者の実態に応じて工夫を行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	82%	0%	子どもの状況やニーズに応じて、全体で過ごす時間と、2,3人の少人数で行う学習活動、多数で行う英語活動やイベント活動等適宜組み合わせを行い支援を行っている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	73%	18%	概ね前日までに打ち合わせを行い、詳細については当日話し合いを行うことができている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	連絡ノートを作成し、それぞれの職員が気づいたこと等を共有している。また、ノートを通じて今後の支援についても共有するとともに、必要に応じて職員が集まり話し合いで共有を図っている。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	支援の記録の付け方について文面化して全員に指導し、周知徹底を図っている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	64%	0%		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	82%	0%			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	45%	0%	児童発達支援管理責任者が出席を行っている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	64%	18%	学校との連絡調整と合わせて保護者にも共有を図るなどして共通認識を持つことができるように工夫をしている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	36%	0%	(該当者なし)	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	45%	18%	就学以前のことは保護者から情報提供をいただいている。	必要に応じて以前の関係機関とも連携をとるようにしていきたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	45%	18%	(該当者なし)	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	55%	18%		今年度は受けることができていない。今後積極的に参加していきたい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	18%	18%		今年度取り組みは行えていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	18%	18%		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	91%	0%	連絡帳やお手紙のやり取り、送迎時等に保護者とは連絡を行い課題等について伝え合うことができている	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	45%	18%	相談があった際には、家庭でできる取組等について助言を行っている。	全体に対してのペアレントトレーニングの実施等、今後検討していきたい。	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	82%	9%		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	91%	0%	電話や送迎での引き渡しの時、手紙の交換など適宜相談に応じている。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9%	27%		今後取り組みを行っていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	91%	0%	体制整備を行い、迅速に対応することができている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	91%	9%	月に1度の会報の発行を行うとともに、定期的にSNSを使って事業所での取り組みや利用者の様子を発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9%	18%		今後取り組みを行っていきたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	36%	18%	マニュアルの作成を行い、職員への周知を図っている。	保護者へ向けての周知は十分にできていないため、今後療育管理システム等を用いて周知をしていきたい
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	27%	18%		利用者を交えた訓練を行ってきたい
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	27%	27%		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	45%	18%	(該当者なし)	定義については職員間で周知を図ってきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	82%	0%	保護者への聴き取りから対応を進めている。	必要に応じて医師の指示書の提出をお願いするようにする。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	82%	0%	その都度作成し共有できている。	